「梅干の日」をPR

みなべ町 東農園 百貨店でイベント開催中

「梅干の日」ののぼりを手にPR

みなべ町東本庄836―1、㈱東農園（東善彦社長）は平成16年に日本記念日協会に登録した今月30日の「梅干の日」PRへ、全国各地でイベントを展開している。

メーンは和歌山市内の近鉄百貨店や東京の大手百貨店合わせて15店舗での特設ブース開設で、3000円以上の梅干しを購入すると梅ゴマやドレッシングを進呈している。チラシ3万枚も印刷して配布。インターネットを使った通販も行っており、こちらは抽選で梅ゴマなどをプレゼント。期間は30日まで。

「梅干の日」は「7月30日（ナンがサレ・難が去る）」の語呂合わせで設定。その年の恵方に向かって梅干しを食べると気が高まり、精気がみなぎるとされている。ことしの恵方は南南東で、「梅干の日」をPRして販売促進につなげるのが狙い。東社長は「梅干の日は登録から4年目で、年々消費者の関心が高まるにつれ、関連業界の反応もよくなっている。関連業界が一致団結して取り組むようになれば」と期待している。

日高新報から抜粋